

泉

いずみ

―目次―

表紙 「サンマ」

百折不撓「ふるさと」

野呂大悟

晴天の霹靂

野呂美道

虎に翼VS広目天

野呂美道

目は口ほどに

野呂美道

新連載「それでも人生には意味がある②」

勝田茅生

本山団参募集

掲示板・お知らせなど

*付録 ハザードだより



女川の 海の香まとう 秋刀魚かな 野呂博子

今年の正月にあった能登半島の地震から10カ月も経たないうちに、次は大雨による被害が発生しました。自然は本当に場所を選ばず、時を選ばず。まだまだ復興半ばの地域に、復興への希望やエネルギーをも根こそぎ奪い去ってしまうかのような今回の大雨による被害は、被災者にとって「泣きっ面にスズメバチ」と言われていた方もいたように、まさに「とどめを刺された」かのような心情にかける言葉も見つかりません。この原稿を書いている2日前に、研修会にて能登震災の現状の報告という事で、現地から災害支援のエキスパートをお呼びする予定でしたが、今回の豪雨災害の影響で愛知には来られず、急遽オンラインでの出演となりましたが、まさに一刻を争うような危機迫る様子をまざまざと感じさせられました。

今回の豪雨は、もちろん大量の雨が大きな原因でもありますが、地震の影響もかなりあるということでした。まだ道路も仮の状態で繋がっていた場所や、もともと地盤が緩くなっているところに大雨でさらに被害が大きくなったのではないかと、輪島出身で、現在は愛西市の障害者施設で施設長をしている△さんが言っておりました。△さんも実家のご家族は地震で避難を余儀なくされ、今は仮設住宅で生活をされているとのこと。△さんは地震直後から能登へ入り、障がい者施設を中心に支援をされて、公的な支援が届かない、まさにSOSのサインも出せない方々や施設をアウトリーチ（必要な場や必要な物な

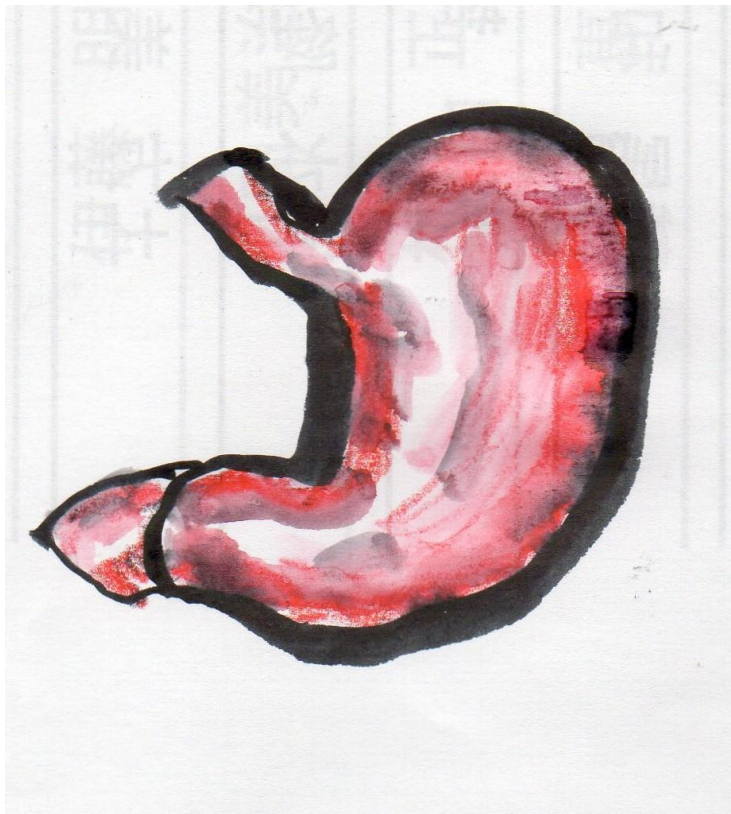
どを届けること）にて、多くの障がいのある方や施設のスタッフの方々を救ってきたという経験から、愛知県の障害者支援団体の防災委員長として活躍されています。そんな△さんとの会話の中で、△さんがボソッと「もうこれで、実家に帰るといった概念がなくなるかもしれない」と言っていました。「なぜ？」と聞くと、「輪島市の辺りは高齢化率も高く、人口もどんどん減少している。僕も、若いころには『こんなところに住み続けたくない』と思って、大学を機会に愛知に来了。でも、当たり前前に正月などは実家に帰ったりしてたけど、もう今回の大雨で、もとの場所に家を建てて住むということまで復興しない気がする。やはり、復興には時間と何よりもお金がかかる。財源には限りもあるなかで、新たなコミュニティの在り方が問われるかもしれない。ふるさとはいつまでも残って欲しいという思いはあるが、難しさもあるだろうという感じはする。」ということだった。

今回の地震や大雨の災害は、私の実家の愛西市も同じような現象が起こると思います。地震での液状化や道路の寸断。地盤が緩くなったところに大雨でも降れば、海抜ゼロメートル以下の三和地区はあつという間に水浸し。そこから復興と言っても、高齢化率も高く、人口も減りつつある地域の中で、どこまでの復興が現実的なのかも必ず起こってくる課題だと思っています。

今回の災害で被災された方々、心よりお見舞い申し上げます。

◆7月の健康診断で私はいつものように胃カメラを呑んだ。今年は鼻からカメラを入れた。細くてとても楽だった。毎年2か所の細胞を取って、精検をしているが今年癌細胞が見つかった。◆私の家系は癌患者がいなくて、大丈夫だろうと思っていたのが甘かった。主治医は早速大病院に紹介状を書いてくれて言った。「野呂さん、大丈夫。必ず完治しますよ！」◆病院では再び胃カメラによる精密検査が行われた。太いカメラを挿入するので、全身麻酔で行なった。無意識に暴れるといけないので、両手両足を縛られて口には無理やり器具を装着された。恐怖感に襲われる前に麻酔が効いてきて、目を覚ましたらすべてが終わっていた。

◆妻によれば、検査が終わって部屋に戻る患者が私も含めて数名いたが、誰もが口をだらしなく開けて、よだれをだらだら垂らしながら部屋に運ばれたそうだ。◆2日後、結果を聞きに行った。ステージ1の胃癌で、内視鏡で手術を行うということだった。癌が取り切れない場合はさらに胃を切除する手術になるということ。私は10月上旬から約1週間入院することが決まった。◆腹を決めた私は、徹底的に病気を治すことにした。今まで病気知らずで、健康そのものだった私に、「ちよっと休みなさい。」という天の声が聞こえてきた。◆今回のことで、深く学んだことがある。私はとてもラッキーだったということだ。例年きちんと健康診断を受け、胃の検診はレントゲンではなくて、必ず胃カメラに決めていること。だからこそ今回の早期発見につながった。このような地道な検査が、いざという時に威力を発揮する。



好例だと思った。ほうっておいたら、自覚症状が現れ、胃の全摘手術になっていたかもしれない。健康診断はとても大切である。◆私は関わっている数々の活動をすべてキャンセルした。寺役（月参り）は住職がやってくれる。検査の時は妻がずっと付き添ってくれた。入院中も世話になる。有難いことだと思う。◆治療が成功すれば、私はまた10月下旬から活動を再開する予定だ。それまで、皆様方にご迷惑をかけますがどうぞよろしく。◆今月の言葉に、アメリカ南北戦争の兵士が病院に書き残した言葉を挙げた。8頁にコメントを述べたので一読して下さい。



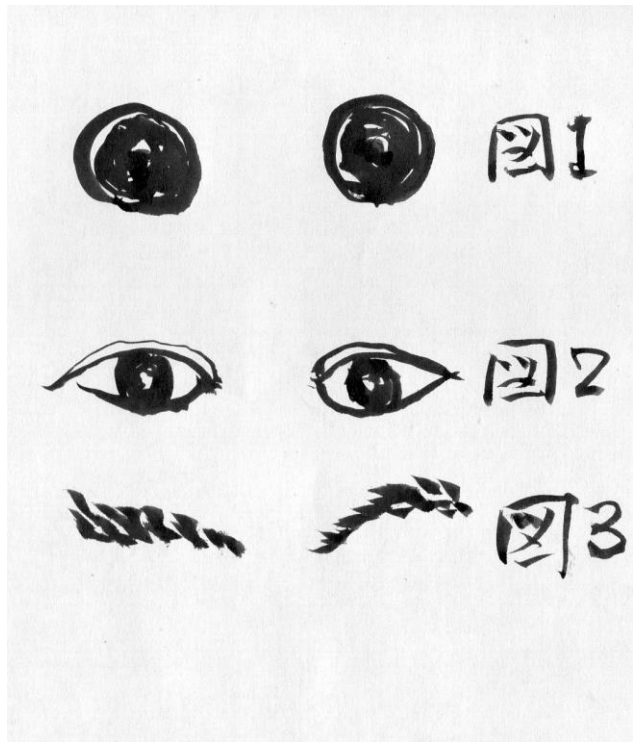
上…朝ドラ「虎に翼」のヒロイン佐藤寅子役「伊藤紗莉」
下…東大寺戒壇堂四天王の一人「広目天」

◆写真の解説から始める。上の写真は、9月で終了した朝ドラ「虎に翼」のヒロイン、佐田寅子（ともこ）役を演じた伊藤紗莉。下の写真は東大寺戒壇堂の四天王の一人、広目天だ。◆ずばり、私の第一印象であるが、この二人、顔の表情、特に目のあたりと、眉間に寄せたシワの感じが酷似していると思うのだ。寅子の表情は苦渋に満ちていて、相手に対する同情や思いやりの表情が見て取れる。苦難の中での深い愛情を感じる。◆わが国で初めての法曹界での女性判事、三淵嘉子をモデルにしたドラマである。名古屋の市政資料館や、鶴舞公園の公会堂などがロケ地になったこともあって、私はずっとファンだった。◆憲法を元に、司法はその独立性を保つべきものであり、民主

主義の基本的なルールである三権分立の一翼を担う。すべての国民は法の下に平等であり、法は国民を守るためのものである。その番人である裁判官は、何よりも庶民の目線で、裁判を行わなければならない。そして権力や抑圧から国民を守るという責務を負うものである。◆一方、仏教を守る守護神としてインドで考えられたのが、四天王である。持国天・増長天・広目天・多聞天だ。その中の広目天は、あらゆる世界の情報を冷静な目で見つめ、それを平等に判断し、正しい教えを守るといふ重責を担う神である。その目は細くいかつい感じではあるが、眉間に寄せたシワは、いくらかの葛藤を抱えながらも、冷徹に物事を判断する理性を保つ。◆つまり、佐田寅子の表情と広目天のそれは私の感覚では同じものだ。恐らく、広目天も、仏教を脅かす様々な異教と戦う必要があっただろう。釈迦の教えを守り抜くには、厳しく透き通るような眼差しが必要だ。◆しかし、広目天にはただ恐ろしいだけの表情以外にも感じられるものがある。慈愛に満ちた優しい心がどこかに感じられるように私には思えてならない。それが、眉間に寄せたシワである。◆苦悩に寄り添い、相手と気持ちいを合わせる表情だ。まさにそれが佐田寅子の面持ちと同じように私には感じられる。◆法曹界も仏教も苦しんでいる人々を救うというヒューマニズムが原点にある。そこを端的に表したのが二人に共通する眉間のシワではなからうか。私の全くの独断ではあるが……。 (知らんけど)

◆4頁の記事を書き終わったあくる日、ラジ
 才深夜便を聞いていたら、何と「目」につい
 て、大阪大学の中野珠美（たまみ）教授が、
 関連する興味深い話をしていたので、紹介し
 たい。◆その昔、人類の祖先はサルだった。
 樹上生活が主であったから、目は丸く、白目
 の部分が無かった。（図1）黒目と白目が分
 かれていたら、その個体がどこを見ているか
 が、相手に分かかってしまうので、分からない
 ほうが敵に攻撃されず、有利だったのである。
 ◆その後、サルは地上に降りてきて、類人猿
 となった。平野では樹上と違って、水平方向
 に気配りをしなければならぬ。従って目は
 横に長くなった。それに伴って、黒目の部分
 の周りの眼球の周辺から茶色い色素が抜けて
 白目があらわれた。（図2）◆これでは、相
 手に自分がどこを見ているかが分かってしま
 う。例えば、サッカーをしている時、相手に
 自分が見ている方向を知られてしまったら、
 ボールをどこへ持っていかかが分かってしま
 う。◆しかし、これがまた絶妙な効果を生ん
 だ。つまり、わざと相手に自分がどこを見て
 いるかを知らせることで、お互いのコミュニ
 ケーションを作り出す働きを目に与えたのだ。
 ◆続いて、人類には眉毛がある。もともとは
 目に雨などがかからないように毛で保護して
 いたものだが、他の動物と違って、眉毛が動
 くようになった。（図3）◆これによって、

私たち人類は複雑な自分の気持ち、目や眉や口など
 の顔の表情を使って相手に伝えることができるようにな
 った。◆私たちがテレビドラマを見ている時に、ほ
 とんどが役者の顔を見て、声を聞いている。もつと言
 えば、顔の中でも特に目の表情を追っている。「目は
 口ほどに物を言い。」という表現をよく使うだろう。
 ◆顔の表情はその他にも額に寄せたシワや、釣り上げ
 た眉、厳しいまなざしなどで、怒りを表わしたり、優
 しいまなざし、涙、下げた眉などで悲しみや同情など、
 様々な喜怒哀楽の表情を作り出す。◆その表情は、人
 種の枠を超えて、世界共通のものになっている。◆前
 頁の寅子ちゃんや、広目天の表情には様々な意味があ
 るのだろう。受け止める私たちも、創造力を働かせて
 彼らの発するメッセージを汲み取るうではないか。



◆20世紀初頭、ウイーンに生まれた、ユダヤ人精神科医、ヴィクトール・フランクルは、戦後すぐに「夜と霧」（ある心理学者の強制収容所における体験）を出版しました。しかし、彼の功績はそれだけではありません。彼は「ロゴセラピー」という心理療法の創設者でもあるのです。◆「ロゴ」は古代ギリシア語の「ロゴス」に由来します。一般的には「言葉・論理・思想」と訳される言葉ですが、フランクルは、「意味」という言葉として使っています。

（前略）私たちは意味が何かということとはできません。けれども生きることには意味があると分かろうとすることはできません。たとえどんな条件のもとでも、どんな状況のもとでも人生には意味があるのです。つまり意味喪失感に対してさえ意味があり、最期の瞬間、私たちは息を引き取るまでその意味を持ち続けるのです。（Die Sinnfrage in der Psychotherapie）

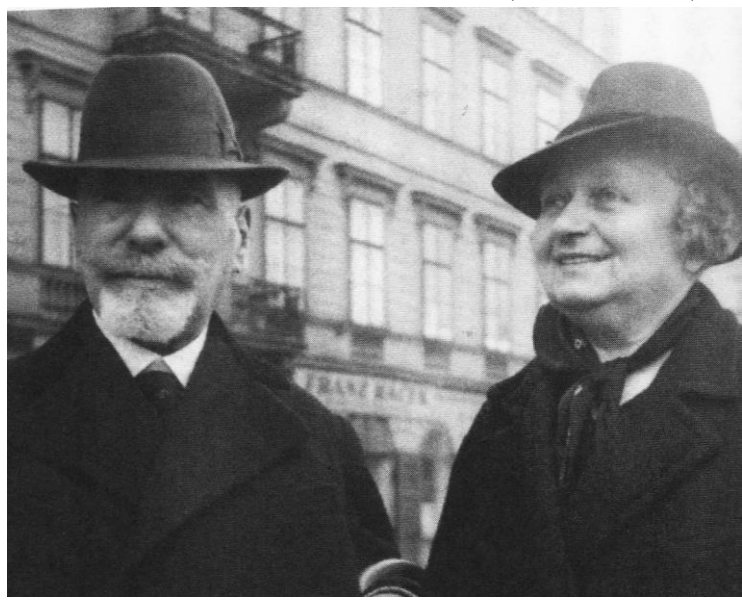
◆フランクルは、「たとえどんな状況にあっても人生には意味がある。」と言いつづけました。彼がなぜそのような考えに至り、ロゴセラピーという「意味を軸にした」心理療法を確立したのか、彼の生い立ちをたどりながら探っていきましょう。

◎日曜生まれの子

◆1905年3月26日の日曜日、ウイーンで彼は誕生しました。父親は44才のガブリエル、

母親は26才のエルザ。いずれもチェコ出身のユダヤ人で、フランクルは二人目の息子でした。◆ヨロッパには、「日曜生まれの子」は明るく朗らかな性格で、生きていくうちにたくさんのお恩恵を授かるという言い伝えがあります。彼がどんなときにもユーモアを忘れない明るい人だったことは、彼の奇跡的な運命を考えると重要なポイントです。◆ガブリエルは、ユダヤ教の熱心な信者でもありませんでした。フランクルは、この父親に宗教教育を厳しく施されました。母親のエルザは、プラハの名家出身でした。彼は母親のことを、「心から神を信じていた善良な人」と表現しています。◆厳しい父と優しい母。両親の持つ正反対の性格を、フランクルは確実に受け継いでいました。自分はどうあろうと、家族のため、あるいは仲間のために働こうという強い正義感や義務感が、彼に生きる力を与えていました。

（続く）



本山報恩講

団体参拝のご案内

日程

11月22日

金曜日

時間

7:00-17:30

参加費

15,000円

定員 先着25名

主催 **安泉寺**

愛知県愛西市三和町中ノ割173-1

住職 野呂大悟

昨年に引き続き、本山の報恩講の団参を行います。日程は2024年11月22日(金)。今年、宇治のレストランにて昼食を予定しております。真宗大谷派では1年で最も大切な法要です。皆さまのご参加をお待ちしております。

行程 **7:00**
安泉寺集合出発

新名神

9:30-11:30
本山報恩講参詣

12:15-14:00
(昼食)

14:00-15:00
宇治(散策)

新名神

17:30頃
安泉寺到着・解散

★交通状況や天候などの都合で、変更になることもあります。



きりとり

- * 申し込みは、以下にご記入いただき安泉寺にお持ちください。(定員になり次第締切り)
- * 参加費15,000円は申込書と併せてお持ちください。

参加者氏名 () ご連絡先 ()

昼食【どちらかお選びください】 魚料理 ・ 肉料理

10月の行事予定

大成講

一日(火)

遺族会追弔会

十日(木)

ヨガ体験・別院募金

十二日(土)

文芸クラブ例会

十七日(木)

写真クラブ例会

仏教会追弔会(即随寺) 十九日(土)

今月の掲示板

偉大なことをできるようと
健康を求めたのに
より良きことをするようと
病気を賜った

南軍兵士の言葉

◆詩の最後はこう結ばれています。「……求めたものは一つとして与えられなかったが、願いはすべて聞き届けられた。私は最も豊かに祝福されたのだ。」

いずみのほし

◎表紙を飾る見事なサンマは9月中旬に女川の鈴木さんから送られてきた逸品です。目が黒々として、銀色の胴体がまぶしく、脂がのって美味しそう。◆塩焼きにして大根おろしとカボスをかけ、醤油を垂らしていただきました。頭から尻尾まですべていただきました。一気に秋になりました。

◎亡くなった教え子を偲ぶ会が再び書院を貸し切って開かれました。お昼ごろから始まって、延々と会は続き、前回と同じく午後6時ころやっとお開きになりました。

◆缶ビールが30本ほど空になりました。その間、教え子たちは高校時代の楽しい思い出にふけり、話しはいつまでたつても尽きませんでした。◆今度は私の快気祝いを兼ねて、なべ料理をご馳走してくれるそうです。開く理由は何でも良いようです。要するに楽しく飲めれば良いのです。

◎本山団体参拝の食事の下見(舌味)に宇治のレストラオンへ行きました。教え子のシェフの渡辺君は、リノベーションした町屋の古民家で孤軍奮闘、店内は若い女性で満席でした。◆宇治に店を開いて八年目、ポリウムたっぷりランチに私たちも大満足。早速店を貸し切りにして予約しました。皆さん、是非ご参加を!

◎能登の豪雨被害については、言葉もありません。なぜ、天はかくも過酷なことを人々に強いるのでしょうか。ボランティア団体「でらボラ名古屋」がタイムリーな支援として雑巾を集めています。是非ご協力ください。月参りの折か、お電話をいただければいただきにまいります。